

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

評価	
全体を通して（特に良いと思われる点など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・このグループホームは、山間の静かな環境の中にあります。周辺には10件の町営住宅と2件の民家があるだけの小さな集落です。この地区に、夜間でも明かりのともった場所が欲しいという思いで、このグループホームがつけられました。入居者のほとんどが町内出身者で、住み慣れ親しんだ環境の元で毎日を送っていらっしゃいます。 ・ごちまもりとした地区の中で、ご近所との日々のお付き合いを大切にされ、支えあって生活されています。地域の方との交流の機会を作り、一緒に生活していくという姿勢があります。約半数が高齢者の世帯で、日ごろからグループホームに遊びにこられることも多く、良い関係が保たれています。 ・管理者は、地域の在宅介護の経験者で、入居者のほとんどの方とはその頃からの顔なじみです。そういった点からも、お互いに安心してホームでの生活を始めることができました。 ・農業経験者が多いということから、入居後も経験を生かした生活ができるように、野菜作りなど土に触れる機会を作っています。 ・山間で、生活の変化に乏しい場所がありますが、生活が単調にならないよういろいろな工夫されています。1時間ぐらいたけてゆっくり周辺を散歩したり、1日おきぐらいい買い物に出かけられています。隣の集会所では、いろいろな催しが企画され、地域の方と一緒に楽しんでいます。 	
特に改善の余地があると思われる点	
<ul style="list-style-type: none"> ・管理者とスタッフのコミュニケーションが不十分です。そのことは、入居者に対する支援に影響するので、法人の責任者もしっかりと関係の調整を図っていただきたいと思えます。 ・来客を歓迎する態度など、社会人としてのマナーにやや欠ける職員がおられました。対人援助の仕方、接遇教育の機会を増やしていただきたいと思えます。 ・入居者の方が外に出ても周囲を見渡せ、また、地域の方も見守ってくださる環境です。玄関は、入居者の方が痴呆症状により落ち着かれていない時は安全のため施錠を行っていますが、施錠というハード面で安全を確保するのではなく、職員の見守りなどのソフト面で解決できるような方策の検討が必要ではないでしょうか。 	

事業所名	グループホームびっちょ
日付	平成16年12月13日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	病院（老人病棟）での看護業務歴 18年 在宅介護支援センターでの相談歴 11年、家族介護歴 3年
自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）	
評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）	
事業者のコメントを見る（評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！）	

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「第二の我が家」として、生きる喜び、生きる意欲を高めるようなホームづくりを目指されています。 ・家庭的な雰囲気の中で、個々の能力に応じた援助をしていき、入居者が穏やかで笑顔のある生活を送れるような関わりをしていきたいと思っておられます。 ・小さなグループで、なじみの関係を作り、お互いが良い刺激を与え合う、そのことが症状の軽減につながり生き生きと生活していけることを願っておられます。 		

ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・できることは時間をかけても見守りながらしていただいています。 ・他者の目を気にされる方や、詮索されるのを嫌う方に対しては、なるべくその場から引き離してあげるような配慮をしています。 ・居室への出入り時は、必ず声をかけるようにしています。 ・ご本人の意思を尊重できるよう、外出、入浴、飲み物の選択など、いろいろな場面で自己決定をしていただけるような働きかけをしています。 		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じて、生活にも変化を取り入れています。春や秋は、できるだけ戸外に出るようにしていますが、冬は寒く、雪が降ることもあるので、室内で楽しめる手芸などをしていただくようにしています。廊下をギャラリーにみたくて、手作りの作品を掲示するような工夫もされています。趣味のない方にも、何か楽しめることを見つけて、落ち着いた生活をさせてあげたいという思いが伝わってきました。 ・職員がバタバタしていると入居者も落ち着かないため、ゆっくりとした対応をして、落ち着いた生活が送れるようにと考えておられます。 		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・このグループホームが、仮の住まいではなく生活の場と想っていただけのようにとの思いで、努力されています。 ・入居者お一人ひとりを大切に、尊重するということを心がけておられます。しかし、その姿勢が職員の中に十分浸透しているとはいえないので、職員の質をさらに向上させるよう、研修の機会を増やしたいと、管理者は考えておられます。 ・事故発生時には、事故報告書・ヒヤリはっと報告書を作成し、再発の防止に努めています。そのときに関わった職員だけでなく、みんなで原因を考えて対処策を講じる努力が必要ではないでしょうか。 		